

学ぶ喜び

ー仲間とともにつながる学校へー

2025.10.27
VOL.14

具体的方策に立ち返る

≠ 今日、教えること。

- ① 授業のめあてをしめす(設定のしかた・魅力ある課題の工夫)
- ② ペア・グループなど、話し合いの場面を設定する(協働的・多面的に学ぶ)
- ③ 既習事項、他教科や日常生活との結びつきを意識できるよう働きかける。(深い学びへ)

協働的な学び ≠ 共同作業

「深く学ぶ」生徒の姿とは？

2年生 数学研究授業から。



10/24に、研究授業にがありました。

授業者はどの生徒も楽しく学べるようにと、入念に準備してくださっていました。生徒の中には「楽しい!」「これめっちゃ楽しい!」と言ってくれてる子も。(…必死で下準備した苦労もあの一言で消えるのは、この仕事の魔法だと思ってます。) しかも、その「楽しい!」っていう間に、カード(三角形の合同条件のトランプで神経衰弱をしていました)の三角形の合同条件「〇cm、△度、□度」等と、自然に確認していて、その後の学びにスムーズにつながっていきそうなワクワク感がありました。

また、この日は、市の指導主事の方に加え、府の教育センターからも指導主事の方が来られていて、かなり贅沢な事後検討会だったと思います。(数学苦手だけど、私も図々しく事後検討会に参加させていただきました。)そこで、ハッとさせられた気づきを共有させていただきます。

そっかあ…!!と思った3つ。

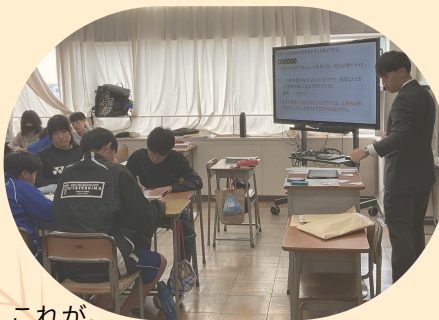
- ① どの子に焦点を当てた授業をするか、という悩みに対して
→どの子にも、その子にとって必要な学びが(内容・方法)提示できるか。
- ② 小学校で同じ単元(例:合同な図形)を、どのように学んでいるか。
- ③ 子どもたちの問いから授業を組み立てる、子どもたちの発言で組み立てる、先生が大切なところをまとめない、ということ。

箇条書きにすると簡単なんです、

- ① は個別最適な学びについて、
- ② は研究主題に対する方策にもある、
既習事項との関わり、
- ③ はめあてのたて方、そして、安心して
発言できたり、失敗できたりする学級で、
生徒主語の授業を展開することについて。
ということで、全て(やるのは)

…難しいんですよ、これが。

と、ひそかに思っていました。さあ、授業、再考。



推進委員会で

先日の推進委員会で、生徒に取るアンケートのある文言について議論する場面がありました。
『授業はわかりやすい』という文言。以前からよくある設問でしたが、これはいったい、何の分かりますかを問うているのでしょうか。
教員の『学習内容の説明がわかりやすい』という認識がこれまではありました。しかし、生徒が主語の学び、深い学び、そして個別最適な内容と学び方が求められる今、何のわかりやすさなのでしょう？
わかりやすく説明するために、一番勉強しているのは、誰でしょうか。求められている分かりますさは、指示のしかた？ 資料？ 友達との対話の内容？ 考えさせられることがたくさんありました。
ちなみに、文言は『授業に積極的に取り組んでいますか』にする方向です。主語が生徒側になりました。

今年のきたてしま学園公開研は 3校とも相互参加となります。



北小 1/23
神小 12/5 北中 2/2

午後、授業カット。
公開研や分科会の流れをつかむとともに、小学校での学びの様子をみて、今後の授業づくりに活かしていきたいです。

※学園内公開研は別集計しますので、個人のQR申し込みはしないでください。